

新たに答申された国登録有形文化財(建造物) 東京タワー



東京タワーの東に広がる三縁山増上寺の広大な境内。増上寺は徳川家の菩提寺として江戸時代に隆盛を極めました。明治6年の太政官布達によって、上野・浅草とともに、芝など5か所の社寺境内が、日本で最初の公園として指定されました。増上寺すなわち芝公園の園内にはケヤキやイチヨウなどの大木があり、また明治35年には運動器具が備えられ、東京の公園における運動施設の始まりという歴史を持っています。その後、戦後の政教分離によって増上寺境内の部分は公園から除かれ、現在の環状の芝公園になりました。また増上寺に隣接する金地院の旧寺域に楓山と呼ばれた景勝地があり、そこには明治期に建設された紅葉館という社交施設があって、戦前まで栄えていたといわれています。

その紅葉館跡地及び芝公園の一角が、海拔18メートルの高台かつ都心に近いという好条件が揃っているとして巨大電波塔の建設用地に選ばれ、後に東京タワーと呼ばれる鉄塔が着工されたのは、昭和32年のことでした。その頃の日本は戦後復興の真っ只中にあり、昭和28年にはテレビ放送が開始されていたものの、放送各局がそれぞれに電波塔を建設していたため、放送各社のアンテナを1か所に集約すべく、前例のない高さの電波塔を建てる構想が持たれていました。既に名古屋テレビ塔(昭和29年竣工)や大阪通天閣(昭和31年竣工)の設計で名高く塔博士と称されていた内藤多伸(たちゅう)(1886-1970)が設計指導にあたることになり、



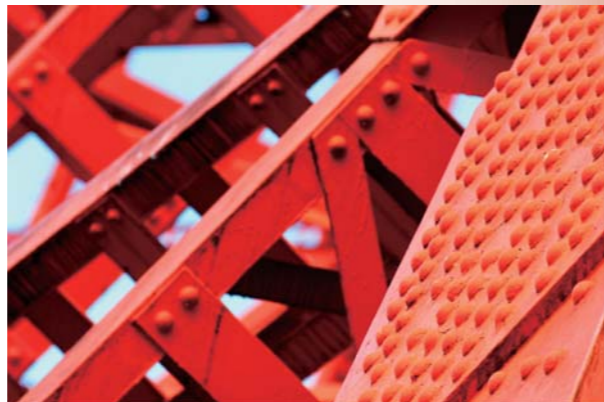
最後に名称について。東京タワーの愛称は、公募により選ばれたものです。審査委員長の徳川夢声は「東京の名物、このような感じをピタリと表している名前…」とコメントし、この後、塔自体の持つ象徴性ゆえ多くの映画や小説に登場することになります。戦後日本の復興の象徴として、また高度経済成長の原点でもある東京タワーは、引き続き現役の総合電波塔として機能しつつ、これからも大都市東京のランドマークとして広く国民に親しまれていくことでしょう。

【参考文献】『東京タワー50年』(日本経済新聞出版社)

新たに設立された日本電波塔株式会社が工事を発注しました。設計は日建設計、施工は竹中工務店で、総工費30億円(当時)の大工事は、昭和33年(1958)12月23日には招待客を招いての完工式を迎え、その夜は花火とイルミネーションで彩られたといわれています。

内藤博士は日本を代表する建築構造家で、安全性と経済性を兼ね備えているとして鉄骨造を提案しました。足元は一辺80メートルの正方形の四隅に塔脚を立てて安定性を高め、高さ333メートルの自立式鉄塔として当時の世界最高を実現しました。それまで世界最高であったエッフェル塔(1889竣工、高さ312メートル)を凌ぎ、地震国日本において、その構造学の優秀性を世界に示すことになりました。内藤博士は後にエッフェル塔竣工75周年記念祭に招かれたそうです。使用された鋼材の総重量は3,600トンで、米軍の戦車も使用されたといわれています。白とインターナショナルオレンジの2色に塗り分けられた塗装は5年ごとに補修され、そのため鉄骨は今でも全く腐食していません。また高さ150メートルに位置する大展望台は建設当初から、高さ250メートルに位置する特別展望台は昭和42年改修時のものです。

このようなことが評価され、平成24年12月14日に、文化審議会(文部科学省)により、国の登録文化財に登録するよう答申が行われました。近日中に行われる官報告示を経て、登録有形文化財(建造物)に登録される予定です。



編集後記 今回は、国選定保存技術である金唐紙製作を御紹介しました。一度は衰退した技術を復活させることの難しさ、細かな作業の続く金唐紙製作の大変さを感じました。また、今年度は、都指定として3件の文化財が新しく加わりました。国登録有形文化財には、映画でも馴染みの東京タワーなども答申を受けました。暖かくなるこれからの季節に向けて、新旧含めた様々な文化財巡りを楽しんでいただければ幸いです。



東京の文化財

神庭の神楽(奥多摩町)「五人三番」

目次

東京都指定文化財の新指定	1~3
国選定保存技術 — 金唐紙 —	4~5
文化財を生かす(中央区・立川市)	6~7
新たに答申された国登録有形文化財(建造物)東京タワー	8

東京都指定文化財の新指定

東京都教育委員会は、東京都文化財保護審議会(会長 鈴木 誠)から答申を受け、平成25年2月21日、3件の新指定を含む計5件について決定しました。今回の「東京の文化財」では、新たに指定等をした文化財について御紹介します。

1 新たに指定するもの

東京都指定有形文化財(絵画)

増山雪斎博物図譜関係資料 虫多帖4帖

所在地:台東区上野公園13番9号 東京国立博物館

所有者:独立行政法人国立文化財機構



春の帖 第15丁表 オオミズアオ(下段)など

『虫多帖』は、伊勢長島藩増山家6代当主で、南蘋派の画法を学んだ文人大名増山雪斎が、現在の豊島区巢鴨にあった下屋敷地内で採集された虫類など約300点を写生し、4帖の画帖に貼りこんだ虫譜図です。

写生図からは雪斎の博物学的な探求姿勢をうかがうことができ、江戸時代後期に流行した博物図譜の中では、写実性に富んだものとして評価されます。19世紀初頭の江戸における昆虫や両生類などの生息状況を垣間見ることができることから、東京の博物図譜として学術的にも重要です。

東京都指定有形文化財(考古資料)

萩藩毛利家下屋敷跡出土地鎮具 30点

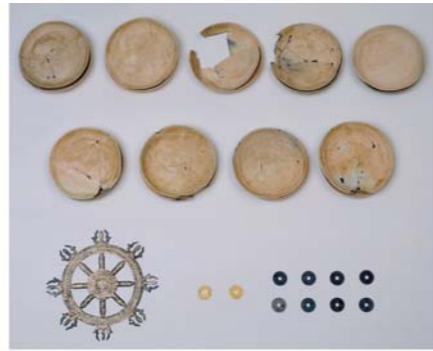
所在地:東京都教育庁保管

所有者:東京都(東京都教育委員会)

本地鎮具は、現在の東京ミッドタウンである、旧防衛庁跡地の発掘調査により、平成15年1月に発見されました。

大大名である毛利家の下屋敷の中央で検出された土坑から出土した地鎮具一式で、特に表裏に精緻な文様が掘り込まれ鍍金された青銅製の輪宝と、純度の高い金で作られた永樂通寶金銭は優品です。

江戸大名屋敷で行われた地鎮儀礼を示す資料として希少性が高く、また学術的価値が高い重要な資料です。



萩藩毛利家下屋敷跡出土地鎮具



永樂通寶金銭



金銅三鈷輪宝

の銘がある獅子頭が伝来していることから、遅くともこの頃までには伝播していたことがわかります。

また、記録より大正末期には里神楽系の演目が加わったことがわかっており、現在は新旧2系統の神楽が並存し幅広い芸態を維持しています。

江戸後期から戦前にかけての多摩地域における、民俗芸能の伝播・受容の歴史を示すものとして重要です。

東京都指定無形民俗文化財(民俗芸能)

神庭の神楽

主な伝承地:西多摩郡奥多摩町海澤824番地

神庭山祇神社

保持団体:神庭神楽連

「神庭の神楽」は、奥多摩町海澤の神庭山祇神社で毎年夏の例大祭にて奉納される神楽です。

獅子舞を中心とする太神楽で、寛政2年(1790)



「獅子舞」



「天の岩戸」



「種蒔き」



「千ノ利」を見る観客

2 新たに指定し、既になっているものを解除するもの

東京都指定史跡

奥絵師狩野家墓所

附	改葬墓	15基
	分骨墓	1基
	筆塚	4基
	改葬記念碑	1基
	木製位牌	46基
	墓出土品	一括

所在地:大田区池上一丁目1番池上本門寺墓所他

所有者:宗教学法人池上本門寺

「奥絵師狩野家墓所」は、江戸幕府の画業を掌握した狩野4家(中橋、鍛冶橋、木挽町及び浜町狩野家)の墓所です。

それぞれの家系の当主と夫人、子女の墓、ほぼ全てが残され、家系ごとにまとまりをもって埋葬されています。

また、代々当主の墓石の形は、家系による一定の規範があり、その大きさが奥絵師の中での階層差を反映するなど、奥絵師狩野家の事績を現在に伝える墓所です。

なお、既に指定されていた旧跡「狩野探幽墓」については、本指定に含まれることから、旧跡の指定を解除します。



奥絵師狩野家墓所 墓域(手前右が狩野探幽墓)



木挽町狩野家2代、3代及び9代墓(附指定)

3 既に指定しているものの種別及び名称を変更するもの

東京都指定有形文化財(古文書)

増山雪斎博物図譜関係資料 虫塚碑 1基

所在地:台東区上野桜木一丁目14番11号

所有者:宗教学法人寛永寺

「虫塚碑」は、伊勢長島藩増山家6代当主増山雪斎が『虫豸帖』を作画、編集のために殺生した虫類を供養するため、その遺命に従って建立された塚に立てられていた石碑です。撰者は、大窪詩仏、葛西因是、菊池五山ら江戸後期を代表する漢詩人です。

碑文の内容は、増山雪斎の隠居後の生活ぶりや、『虫豸帖』としてまとめられる虫譜図製作の状況、虫供養の韻文などが様々な書体で陰刻されています。

供養の対象や建立目的が特異であり、近世の文人大名の風流を今日に伝える碑であることから、旧跡から有形文化財(古文書)に種別を変更します。旧跡指定の名称は「虫塚」でしたが、昭和初期に現在の場所に塚石のみ移転されたことから「虫塚碑」とし、『虫豸帖』との関連性を明確にするため、「増山雪斎博物図譜関係資料 虫塚碑」と名称を変更します。



虫塚碑 碑表

— 金唐紙 —

金唐紙って？

金唐紙は、和紙を湿らせて独特の模様が彫られた筒型あるいは平板の版木(桜材)に巻きつけ、上から刷毛で叩くなどしてデザインを浮き上がらせた後、彩色と防水加工を施して作られる高級擬革紙です。旧前田侯爵邸洋館(東京都指定有形文化財(建造物)、昭和4年建築)や国会議事堂(昭和11年建築)の壁紙としても使用されていました。

金唐紙のできるまで

1 手漉きのコウゾ紙とミツマタ紙の合紙に金・銀・錫箔を貼った手漉き和紙を水で湿らせます。

刷毛で叩くのはかなりの力仕事です。



2 版木棒に紙をのせ、強く均等に4～5時間叩きます。はじめはあて布をして大きな刷毛で、次にあて布を外して小さな刷毛で叩いていきます。



刷毛は豚の毛でできています。

3 乾燥させて、和紙で裏貼りをし、ワニスを塗ります。



ワニスを塗ると銀が金に光り輝きます。



筆や綿棒を用いて一つ一つ丁寧に塗っていきます。かなりの細かい作業。集中力が必要です。

4 漆、油絵の具などで着色していきます。

5 仕上げとして、裏面から柿渋などの耐水剤を数回塗布します。



丈夫で豪華な金唐紙の出来上がり！

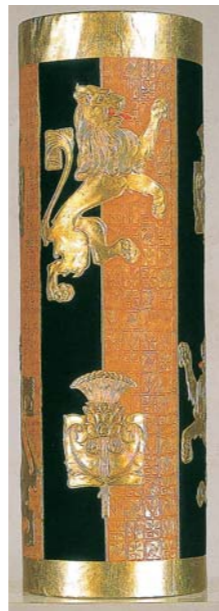
金唐紙の用いられている主な作品

金唐紙は壁紙としてだけでなく、様々な作品に応用されています。金唐紙の使い方によってまた少し違った味わいを楽しめます。そんな金唐紙の作品を一部御紹介します。

「狩人」の三曲屏風



黒百合文様の二 (旧岩崎邸日本間広間)



ライオン文様
バッキンガム宮殿に用いられたといわれています。

金唐紙の歴史

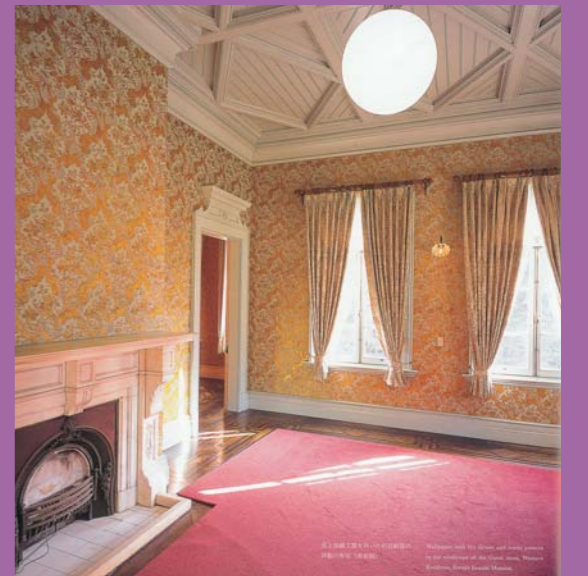
明治5年に、西洋で作られていた「金唐革」(なめし革の上に金属箔を貼ったもの)を日本独自の技術でより使いやすく改良した「金唐革紙」が製作されました。革の代わりに和紙を使用した金唐革紙はヨーロッパにも多数輸出されていました。明治31年(1898)に最盛期を迎えた金唐革紙でしたが、品質の低下や機械製の壁紙が登場することにより衰退し、昭和20年(1945)には製造が中止されました。

昭和31年(1956)に一度製造を再開したものの、昭和37年(1962)には工場が閉鎖となり、製造技術が途絶えました。

この金唐革紙の技術を昭和59年(1984)旧日本郵船小樽支店の壁紙修復に伴い、上田尚氏が2年の歳月をかけ復元に成功しました。この復元した壁紙は「金唐紙」と呼ばれています。

その後も上田氏は日本各地の文化財の壁紙を復元し、平成17年(2005)に金唐紙は国の選定保存技術として選定され、上田氏はその技術保持者として認定を受けました。

東京都内では、旧岩崎邸の壁紙に上田氏の製作した金唐紙が使用されています。



金唐紙によって復元された岩崎邸の客室

旧前田侯爵邸アカデミー講演会「金唐紙の歴史」

平成24年11月23日には、旧前田侯爵邸に上田先生をお招きし、金唐紙に関する講演会を行いました。その講演会にあわせて11月22日から24日までの3日間、金唐紙の展示会も行いました。



大食堂



書斎(前室)



小客室
昭和初期の洋館には、雰囲気がとてもよく合います。

旧前田侯爵邸洋館の見学について(一般公開)

旧前田侯爵邸洋館は、以下の日程で一般に公開しています。

- 場所 目黒区駒場4-3-55 駒場公園内
- 公開日 毎週水～日、祝日(年末年始を除く。)
- 公開期間 午前9時から午後4時30分まで(駒場公園の閉園時間が午後4時30分となります。)
- 交通 京王井の頭線駒場東大前駅西口下車 徒歩12分/小田急線東北沢駅又は代々木上原駅下車 徒歩13分/東急バス渋谷駅から幡ヶ谷行き代々木上原停留所下車徒歩3分

* 国選定保存技術とは、文化財の保存のため欠くことのできない伝統的な技術・技能のことです。



サイトアドレス <http://www.chuo-museum.jp>

区のホームページのトップページにあるタイムドーム明石(収藏品アーカイブズ)のバナーボタンからも御利用できます。

(1) アーカイブズ構築の経緯

中央区では、区民等の皆さんからの寄贈や、購入などにより収集してきた区民文化財を含む中央区立郷土天文館所蔵資料の公開活用としてWebアーカイブズを運用しています。

平成23年度から公開を開始した本アーカイブズは、調査・整理からシステムの構築、公開まで3か年の期間を要しました。

作業は、歴史・民俗資料と考古資料の2つのプロジェクトにわけて進めました。歴史・民俗資料は平成20年度に神奈川大学常民文化研究所に協力を依頼。考古資料については平成21、22年の2か年で平成12年(2000)以後に発掘調査を実施した13遺跡を対象として、民間発掘支援会社とともに、調査・整理・収蔵方法の見直しなどの作業を経て基礎データの作成を行いました。

このアーカイブズ構築事業は長年にわたり蓄積してきた旧中央区立築地社会教育会館内郷土資料館から資料を受け継いだ郷土天文館での資料の内部管理の強化も目的にしており、「何が、どこに、どのような状態であるか」を明らかにすることに主眼をおいた作業でした。そして、現在、公開している資料は約23,000点(歴史・民俗資料約11,000点、考古資料約12,000点)にのぼり、ほぼ全点を公開しています。

これまで常設、特別展示等でしか人の目に触れることがなかった収蔵資料を、インターネット及び郷土天文館内に設置している端末で閲覧できる、データベースとして広く御利用いただけるようになりました。

(2) アーカイブズサイトの概要

次の四つの機能で構成しています。

・収藏品資料検索
キーワード検索、カテゴリー検索(歴史・民俗:生活民俗、文書、印刷物等12分類、考古:磁器、銭貨、土製品等14分類)、年代検索(江戸、明治、大正、昭和、平成)、場所検索(京橋地域、日本橋地域、月島地域)など、様々な条件での検索が可能です。地図等については高精画像が専用ビューアで閲覧できます。

また、豊富な地域資料を所蔵する中央区立京橋図書館が公開しているデータベースともリンクし、同じキーワードを再度入力することなく、相互に検索が可能です。

高精細画像も含めて画像の貸し出しをしております。詳細はサイトにある「収藏品資料検索の利用にあたって」を

文化財を生かす(中央区)

収藏品アーカイブズ ～資料から中央区の 歴史をたどる～ を公開しています

御覧ください。

・タイムトリップ探偵

江戸、明治、昭和の各時代の京橋、日本橋、月島の各地域を舞台に、住民から収藏品の情報について聞き込みを行いながら、共通のキーワードを探っていく歴史ロールプレイングゲームです。ゲームの面白さはもちろんのこと、正確な歴史考証を経た各時代、地域の背景画面映像(FLASHアニメ映像)は必見です。



▲細部わたり江戸時代の日本橋の風景を考証した「タイムトリップ探偵」の1カット

・歴史de脳喝ゲーム

絵図や写真資料を中心としたゲームで、画像の年代別に並べなおす「カード早押し」、同じ画像を探していく「神経衰弱」の2種類を用意しています。それぞれの画像に簡単な解説文を掲載し、郷土の歴史を紹介します。

・郷土史クイズ選手権

3段階の難易度レベルで収藏品からのクイズを提供。詳しい解説のついた解答で、歴史への理解が深まります。

(3) 今後の運用について

歴史・民俗資料は購入又は寄贈受領後、調査・整理、撮影を経てから掲載、考古資料については、発掘調査報告書の刊行、配布時に追加掲載していきます。また、各種クイズコンテンツは、定期的に内容更新をする予定です。

データベース管理及びクイズコンテンツについても、随時、職員が更新業務を行ってまいります。

ぜひ御活用ください。

【問合せ先】
中央区明石町12番1号 中央区保健所等複合施設6階
中央区立郷土天文館(タイムドーム明石)
電話 03-3546-5537
ファクシミリ 03-3546-8258

文化財を生かす(立川市)

川越道緑地古民家園 「小林家住宅」の通年体験学習事業



種別:立川市指定有形文化財
指定日:平成元年12月1日
所在地:立川市幸町4-65
開園時間:9時～16時30分
休園日:月曜日(祝日の場合は翌日)

アクセス:●JR「立川駅」北口より西武バス「幸町団地」行き(立川八小経由)「古民家園東」下車徒歩1分
●くるりんバス(北ルート)「古民家園東」下車徒歩1分
●多摩モノレール「砂川七番駅」下車徒歩15分「玉川上水駅」下車徒歩20分

小林家は江戸時代から続く旧家で、地元でも上層の農家に属していました。その主屋は、土間を除いて六つの部屋で構成される六間(むつま)型で、この地域では珍しい形式です。また、建物には高い技術と優れた材料が使われており、最大の特徴は、主屋北西に配置されたオクの間で、床の間・違い棚・書院などの座敷飾りは、当時の武家住宅にも匹敵するほどの高い格式を持っています。



オクの間

<文化財指定と移築復元>

昭和63年7月、小林家より市へ建物寄贈の申し出があり、調査の結果、歴史的価値を有する建物であるとして、平成元年12月1日、立川市指定文化財に指定されました。同時に川越道緑地公園内に移築復元することも決定されました。復元はできるだけオリジナルの材料を使って創建当時の姿に戻す方針で進められました。移築に先立つ解体調査では「嘉永五年」(1852年)と書かれた部材が発見され、建物の建築年代も明らかになりました。

<古民家園オープン>

その後、2年余の復元工事を経て、平成5年10月17日、川越道緑地古民家園がオープンし、園内に復元された小林家住宅が一般に公開されました。主屋のいりりには毎日火が焚かれ、土間や台所には小林家から寄贈された民具が展示されていて、自由に見学することができます。また、端午の節句展や桃の節句展など季節にちなんだミニ展示も開催しています。毎年たくさんの人に訪れていただき、平成25年1月には通算来園者20万人を達成しています。

<通年体験学習事業>

園内には狭いながらも畑があり、麦やサツマイモなどの作物を育てています。そして、収穫時には参加者を募り体験学習事業を開催してきました。しかしながら、「収穫時の体験だけでは農家の暮らしを知るには不十分ではないのか?」という意見が出されました。そこで、これまでの体験学習を、種まきから収穫まで一連の農作業をすべて体験していただく「通年体験学習事業」に改めることとなりました。参加者の方にはジャガイモ・サツマイモ・麦・陸稲といった作物の植え付け(種まき)から収穫に加え、年中行事や収穫祭(試食)まで約1年間にわたって体験していただいています。農業指導の地元農家の方からは昔の農家の暮らしぶりについてもお話いただいています。事業は順調で、今年で第7期を迎えることができました。課題はあるものの、参加された方からは好評をいただいています。



麦の作切りのようす

<主屋の概要>

屋根形式:入母屋造り・茅葺き
平面積:約200㎡(60.4坪)
上屋桁行(東端柱～西端柱):約16.2m(9間)
上屋梁行(南端柱～北端柱):約7.2m(4間)
棟高(礎石～屋根頂):約8.2m(24.7尺)